

(様式第7号)

令和元年度 年度評価表

1 指定管理施設の概要

施設名	青葉山ろく公園(陶芸館)		
指定管理者	公益財団法人舞鶴市文化事業団		
設置目的	陶芸を通じた幅広い文化活動・生涯学習の場とするため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	令和31年4月1日～令和6年3月31日
所管課	市民文化環境部文化スポーツ室文化振興課		

2 利用状況等の推移

	令和元年度	年度	年度	年度	年度
利用者数(人)	3,750				
利用料金(円)	420,920				
指定管理料(円)	12,992,000				

3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
陶芸館利用人数	3,800人	3,800人	3,750人	99%
陶芸館自主事業実施件数	10件	10件	13件	130%

4 収支状況

(円)

収入		支出	
利用料金	420,920	人件費	11,261,562
指定管理料	12,992,000	維持管理費	2,050,170
事業収入	2,140,876	事業費	714,196
その他	66,020	その他	924,524
合計	15,619,816	合計	14,950,452
差額			669,364

5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	△	自主事業の内容を工夫して作陶意欲の高揚につなげるなどの取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月を閉鎖したため、わずかだが目標数値に達しなかった。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	○	自主事業等に工夫を凝らして実施していた。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	○	陶芸に興味を持てるよう自主事業に工夫を凝らし実施していた。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	計画どおり実施されている。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	○	自主事業の工夫や交通手段の工夫など実施したことにより利用者の増加となった。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	○	受付窓口や、電話対応等、迅速丁寧な対応に務めている。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	施設利用者、来館者へのアンケートを行い、利用者ニーズの把握に努め、サービス向上や事業運営に活用している。
利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか	○	常に丁寧な対応に努めているが、苦情やトラブルの案件について、内容や対応記録を残されたい。
(3) 管理運営の効率性		
経費の節減が図られたか	○	光熱費がかかる2月を休館にするなど工夫していた。
委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか	○	物品購入は、見積り合せや通信販売、一括購入により安価に購入するように努めている。

収入増加のための取組が行われたか	○	陶芸館を知らない方への情報発信及び周知を行った。また誰でも楽しめる施設になるよう、親子で参加できる事業を増やした。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	○	適切に人員配置している。
職員の能力向上のための取組が行われたか	○	職員ミーティングを実施し、施設貸与や事業開催における問題点を確認し、利用者サービスや今後の事業展開に結びつくよう努めている。
施設の平等な利用が行われたか	○	条例や規則の厳守に努めている。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	適切に行われている。
情報の公開が適切に行われたか	○	市広報誌やホームページ、SNSを活用し、情報発信を充実している。
収支状況や会計処理が適切か	○	適切に行われている。
施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか	○	適切に行われている。
備品等の管理が適切に行われたか	○	適切に行われている。
危機管理、安全対策などは十分か	○	定期的な機器点検による安全点検、不審者への対応等安全確保が実施されている。
法令等を遵守し、適正な管理が行われたか	○	適切に行われている。
(5) その他コメント		
サービス向上		陶芸館の存在を周知する発信を市民に対し実施し、また小学校からの交通手段を提供するなど工夫したことにより、多くの市民に周知することができ、利用者数向上につなげることが出来た。さらに、自主事業に工夫したことにより利用者数の向上につなげることができた。
経費削減		協力企業の参加により事業費を削減し、事業の充実に努めた。また入館が少なく光熱費がかさむ2月を休館月とするなど工夫し、経費削減に努めた。
施設の維持・管理		毎日の巡回、定期点検による園内清掃、安全対策、事前の修繕対応が実施され、利用者に対する安全配慮が適切に実施されている。

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

6 選定委員会による評価

評価点	3.66点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	<p>前年度から利用者数が増加したことは評価できる。 黒字を計上している。 自主事業の小学校陶芸体験教室において児童が参加しやすいようバスを配車するなど工夫がされている。 陶芸を趣味にしたい人は多いと思うので、今後とも利用人数の増加が見込まれる。</p>	

《参考》 過年度の評価点

年度	年度	年度	年度	平均